

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6188060号
(P6188060)

(45) 発行日 平成29年8月30日 (2017. 8. 30)

(24) 登録日 平成29年8月10日 (2017. 8. 10)

(51) Int. Cl.

A 4 7 G 1/16 (2006.01)

F 1

A 4 7 G 1/16

D

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2013-127043 (P2013-127043)
 (22) 出願日 平成25年6月17日 (2013. 6. 17)
 (65) 公開番号 特開2015-261 (P2015-261A)
 (43) 公開日 平成27年1月5日 (2015. 1. 5)
 審査請求日 平成28年3月22日 (2016. 3. 22)

(73) 特許権者 000002462
 積水樹脂株式会社
 大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号
 (72) 発明者 井阪 敏
 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 1 積水樹脂株式会社・滋賀工場内
 (72) 発明者 荒川 義一
 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 1 積水樹脂株式会社・滋賀工場内
 (72) 発明者 大前 晶
 東京都港区海岸1丁目11番1号 積水樹脂株式会社内
 (72) 発明者 来田 恭平
 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 1 積水樹脂株式会社・滋賀工場内
 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 鏡

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

樹脂板の表面に金属箔を形成して構成され、表面に鏡面が形成された板状の鏡本体と、
 前記鏡本体を支持すると共に平板状に維持する支持部と、
 前記支持部と連結され、前記鏡本体を床面に自立させる脚部とを備え、
 前記支持部は、
 前記鏡本体の上端部を前記鏡本体の前後方向で把持する第1把持部と、
 前記鏡本体の下端部を前記鏡本体の前後方向で把持する第2把持部と、
 前記鏡本体の左端部の裏面に取り付けられた第1取付部と、
 前記鏡本体の右端部の裏面に取り付けられた第2取付部と、
左右方向に長さが可変である棒材とを有し、

前記第一の取付部及び第二の取付部は、前記鏡本体の左右方向の異なる位置に固定されるように前記棒材に連結されている鏡。

【請求項 2】

前記第1取付部は、前記鏡本体の左端部から突き出ないように取り付けられ、
 前記第2取付部は、前記鏡本体の右端部から突き出ないように取り付けられる
 請求項1に記載の鏡。

【請求項 3】

前記第1取付部及び前記第2取付部は、前記鏡本体の裏面に着脱可能に取り付けられる
 請求項1又は2に記載の鏡。

【請求項 4】

前記第 1 把持部は、前記左右方向に延設され、内側に前記鏡本体の上端部が配置されたコ字状の枠材を有し、

前記第 2 把持部は、前記左右方向に延設され、内側に前記鏡本体の下端部が配置されたコ字状の枠材を有する

請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の鏡。

【請求項 5】

前記鏡本体は、樹脂板の表面に金属箔としてのステンレスを形成して構成され、

前記ステンレスの表面には、保護フィルムが形成されている

請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の鏡。

10

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、鏡に関し、特に自立式の姿見鏡に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、体育館等の屋内スポーツ施設内又はグラウンド等の屋外スポーツ施設内では、スポーツ練習用に姿見鏡が設けられている。このような姿見鏡については、特にゴルフ及びダンス等の身体全体を写した練習に用いることを考慮して鏡面の大型化が要求される。さらには、練習においてボール等が誤って衝突する可能性を考慮して、破損され難い特性も要求される。

20

【0003】

このような 2 つの要求に応える鏡に関する技術が特許文献 1 に開示されている。特許文献 1 においては、硬質プラスチック板をアルミニウム材で挟着し、一面側を電気メッキして鏡面部とし、他面側を焼付塗装して裏面部として鏡本体が形成されている。そして、鏡本体の裏面部の左右両端部には筒状支柱が取り付けられ、この筒状支柱の下端にはキャスターの付いた逆 T 字状バーが着脱自在で嵌合されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

30

【特許文献 1】特開 2007 - 190437 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

ところで、特許文献 1 の鏡においては、鏡本体が可撓性のプラスチックを基材として構成されているため、鏡本体を大型化するに従って鏡本体に撓みが発生し易くなる。このような鏡本体の撓みは鏡像の歪みを生むため、被写体としての実体を正確に写すことを困難にする。しかしながら、特許文献 1 の鏡は、上下方向の撓みについては鏡本体の裏面に筒状支柱を取り付けることで対応しているものの、左右方向の撓みを抑えるための構成はなく、鏡本体の大型化に伴い特に左右方向の撓みが発生し易くなる。

40

【0006】

また、特許文献 1 の鏡においては、鏡本体の支持部としての筒状支柱に対する鏡本体の取り付けは両面接着テープ又は面状ファスナーにより行われているが、鏡本体を大型化するに従って鏡本体の重量は大きくなる。従って、このような両面接着テープ又は面状ファスナーによる簡易な取り付けのみでは、鏡本体の重量の増加に対して支持部及び鏡本体の結合を維持することが困難である。

【0007】

そこで、本発明は、かかる問題点に鑑み、鏡本体が大型化された場合でも、鏡本体の撓みを抑えつつ、鏡本体及び支持部の結合を維持することが可能な鏡を提供することを目的とする。

50

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するために、本発明の一態様に係る鏡は、樹脂板の表面に金属箔を形成して構成され、表面に鏡面が形成された板状の鏡本体と、前記鏡本体を支持すると共に平板状に維持する支持部と、前記支持部と連結され、前記鏡本体を床面に自立させる脚部とを備え、前記支持部は、前記鏡本体の上端部を前記鏡本体の前後方向で把持する第1把持部と、前記鏡本体の下端部を前記鏡本体の前後方向で把持する第2把持部と、前記鏡本体の左端部の裏面に取り付けられた第1取付部と、前記鏡本体の右端部の裏面に取り付けられた第2取付部と、左右方向に長さが可変である棒材とを有し、前記第一の取付部及び第二の取付部は、前記鏡本体の左右方向の異なる位置に固定されるように前記棒材に連結されていることを特徴とする。

10

【0009】

ここで、前記第1取付部は、前記鏡本体の左端部から突き出ないように取り付けられ、前記第2取付部は、前記鏡本体の右端部から突き出ないように取り付けられてもよい。

また、前記第1取付部及び前記第2取付部は、前記鏡本体の裏面に着脱可能に取り付けられてもよい。

【0010】

また、前記第1把持部は、前記左右方向に延設され、内側に前記鏡本体の上端部が配置されたコ字状の枠材を有し、前記第2把持部は、前記左右方向に延設され、内側に前記鏡本体の下端部が配置されたコ字状の枠材を有してもよい。

20

また、前記鏡本体は、樹脂板の表面に金属箔としてのステンレスを形成して構成され、前記ステンレスの表面には、保護フィルムが形成されていてもよい。

【発明の効果】

【0011】

本発明によれば、鏡本体が大型化された場合でも、鏡本体の撓みを抑えつつ、鏡本体及び支持部の結合を維持することが可能な鏡を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本発明の実施形態に係る鏡の構成を模式的に示す正面図である。

【図2】本発明の実施形態に係る鏡の構成を模式的に示す背面図である。

30

【図3】本発明の実施形態に係る鏡の構成を模式的に示す側面図である。

【図4】本発明の実施形態に係る鏡の構成を模式的に示す平面図である。

【図5】本発明の実施形態に係る鏡の支持部及び脚部の構成を模式的に示す正面図である。

。

【発明を実施するための形態】

【0013】

以下、本発明の実施形態について、図面を用いて詳細に説明する。

本発明の実施形態に係る鏡10について、図1～図5を用いて説明する。

【0014】

図1は、本実施形態に係る鏡10の構成を模式的に示す正面図である。図2は、本実施形態に係る鏡10の構成を模式的に示す背面図である。図3は、本実施形態に係る鏡10の構成を模式的に示す側面図である。図4は、本実施形態に係る鏡10の構成を模式的に示す平面図である。図5は、本実施形態に係る鏡10の支持部12及び脚部13の構成を模式的に示す正面図である。なお、図5では、鏡10から鏡本体11が除かれている。

40

【0015】

この鏡10は、床面に立設可能な自立式かつ可搬式の鏡であり、鏡面10aを持つ板状の鏡本体11と、鏡本体11を支持すると共に平板状に維持する支持部12と、支持部12と連結され、鏡本体11を床面に自立させる脚部13とを備える。

【0016】

鏡本体11は、前方から正面視又は後方から背面視したとき矩形状である可撓性の板材

50

であり、正面つまり表面に鏡面 10 a が形成されている。鏡本体 11 は、芯材としての樹脂板と、樹脂板の表面に接合された金属箔と、樹脂板と金属箔とを接着する接着層とを有し、金属箔の表面が鏡面仕上げされて鏡本体 11 の鏡面 10 a が形成されている。鏡面 10 a を構成する金属箔の表面には保護フィルムが形成されている。なお、鏡本体 11 の強度を考慮して樹脂板の裏面に金属箔が形成されてもよい。また、鏡面 10 a を構成する金属箔の表面には、合成樹脂等から構成され、樹脂板より薄い保護フィルムが形成されてもよい。

【0017】

鏡本体 11 の樹脂板としては、ポリオレフィン系樹脂、塩化ビニル樹脂あるいは ABS 樹脂等の合成樹脂からなる板材又はこれらの発泡体を用いることができる。また、鏡本体 11 の金属箔としては、ステンレス、アルミニウム、鉄鋼又はチタニウム等からなる金属箔を用いることができる。さらに、接着層としては、ウレタン系又はエポキシ系等の接着剤を用いることができる。なお、鏡本体 11 の厚みを 2 mm として形成する場合には、鏡本体 11 の金属箔の厚みは例えば 0.1 ~ 0.8 mm 程度とされる。

【0018】

支持部 12 は、鏡本体 11 の長手方向の一端部である上端部 11 a を鏡本体 11 の前後方向で把持、言い換えると挟持する第 1 把持部 21 と、鏡本体 11 の長手方向の他端部である下端部 11 b を鏡本体 11 の前後方向で把持、言い換えると挟持する第 2 把持部 22 とを有している。そして、支持部 12 は、さらに、第 1 把持部 21 及び第 2 把持部 22 が鏡本体 11 の上下方向の異なる位置に間隔を開けて固定されるように鏡本体 11 の上下方向に延設され、脚部 13 と連結された支柱 23 を有している。支持部 12 は、例えば鋼管等の金属の棒材から構成されている。

【0019】

支柱 23 は、鏡本体 11 の裏面側、言い換えると後方に配置され、鏡本体 11 の長手方向、言い換えると鏡本体 11 の上下方向に沿って延設された 2 つの縦角筒と、鏡本体 11 の短手方向、言い換えると鏡本体 11 の左右方向に沿って延設された 3 つの横角筒とを連結して形成されている。このような支柱 23 において、鏡本体 11 の上下方向に沿って延設された 2 つの縦角筒には鏡本体 11 の左右方向に沿って延設された 3 つの横角筒が架設されると共に、第 1 把持部 21 及び第 2 把持部 22 が架設されている。これら複数の縦角筒及び横角筒並びに第 1 把持部 21 及び第 2 把持部 22 の連結は、例えば溶接により行われる。そして、複数の縦角筒及び横角筒の一側面は、鏡本体 11 の裏面と略平行な状態で対向している。

【0020】

第 1 把持部 21 は、鏡本体 11 の左右方向に沿って延設され、内側に鏡本体 11 の上端部 11 a が配置されたコ字状の枠材 21 a と、枠材 21 a に形成されたネジ孔に螺合し、枠材 21 a の内面に鏡本体 11 の上端部 11 a を押し付けるネジ 21 b とを有している。枠材 21 a は、鏡本体 11 の左右方向、言い換えると枠材 21 a の長さ方向の異なる位置に複数のネジ孔を有しており、それぞれのネジ孔に対応してネジ 21 b が設けられて枠材 21 a の長さ方向の異なる複数箇所で鏡本体 11 の上端部 11 a が把持されている。枠材 21 a のネジ孔は鏡本体 11 の裏面側に形成されているため、ネジ孔にネジ 21 b を締結することにより、枠材 21 a 内側で鏡本体 11 の裏面側から前面側に向けて鏡本体 11 の上端部 11 a が押圧されて枠材 21 a の内面に押し当てられる。

【0021】

第 2 把持部 22 も第 1 把持部 21 と同様の構成を有する。つまり、第 2 把持部 22 は、鏡本体 11 の左右方向に沿って延設され、内側に鏡本体 11 の下端部 11 b が配置されたコ字状の枠材 21 a と、枠材 21 a に形成されたネジ孔に螺合し、枠材 21 a の内面に鏡本体 11 の下端部 11 b を押し付けるネジ 21 b とを有している。枠材 21 a は、鏡本体 11 の左右方向、言い換えると枠材 21 a の長さ方向の異なる位置に複数のネジ孔を有しており、それぞれのネジ孔に対応してネジ 21 b が設けられて枠材 21 a の長さ方向の異なる複数箇所で鏡本体 11 の下端部 11 b が把持されている。枠材 21 a のネジ孔は鏡本

体 1 1 の裏面側に形成されているため、ネジ孔にネジ 2 1 b を締結することにより、枠材 2 1 a 内側で鏡本体 1 1 の裏面側から前面側に向けて鏡本体 1 1 の下端部 1 1 b が押圧されて枠材 2 1 a の内面に押し当てられる。

【 0 0 2 2 】

支持部 1 2 は、さらに、鏡本体 1 1 の左右方向の一端部である左端部 1 1 c の裏面に着脱可能に取り付けられた第 1 取付部 2 4 と、鏡本体 1 1 の短手方向の他端部である右端部 1 1 d の裏面に取り付けられた第 2 取付部 2 5 とを有している。そして、支持部 1 2 は、さらに、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 が鏡本体 1 1 の左右方向の異なる位置に間隔を開けて固定されるように鏡本体 1 1 の左右方向に延設され、支柱 2 3 と連結された棒材 2 6 を有している。第 1 取付部 2 4、第 2 取付部 2 5 及び棒材 2 6 の連結は例えば溶接により行われ、棒材 2 6 及び支柱 2 3 の連結は例えばネジにより行われる。

10

【 0 0 2 3 】

第 1 取付部 2 4 は、裏面が棒材 2 6 と結合され、表面が鏡本体 1 1 の左端部 1 1 c の裏面と対向する板材 2 4 a と、板材 2 4 a の表面と鏡本体 1 1 の左端部 1 1 c の裏面との間に設けられて両者を着脱可能に結合する結合材 2 4 b とを有している。板材 2 4 a は、鏡本体 1 1 の上下方向の中央付近に設けられている。結合材 2 4 b としては両面接着テープ又は面状ファスナー等を用いることができる。面状ファスナーを用いる場合には、板材 2 4 a 及び鏡本体 1 1 のいずれか一方に鉤状の突起が付いた面材が取り付けられ、板材 2 4 a 及び鏡本体 1 1 のいずれか他方にパイル状の面材が取り付けられる。

【 0 0 2 4 】

20

第 2 取付部 2 5 も第 1 取付部 2 4 と同様の構成を有する。つまり、第 2 取付部 2 5 は、裏面が棒材 2 6 と結合され、表面が鏡本体 1 1 の右端部 1 1 d の裏面と対向する板材 2 4 a と、板材 2 4 a の表面と鏡本体 1 1 の右端部 1 1 d の裏面との間に設けられて両者を着脱可能に結合する結合材 2 4 b とを有している。板材 2 4 a は、鏡本体 1 1 の上下方向の中央付近に設けられている。結合材 2 4 b としては両面接着テープ又は面状ファスナー等を用いることができる。

【 0 0 2 5 】

棒材 2 6 は、鏡本体 1 1 の裏面から隙間を開けて設けられるため、棒材 2 6 と鏡本体 1 1 の裏面との間の隙間に手を入れて、棒材 2 6 を掴むことができる。その結果、棒材 2 6 を容易に掴んで鏡 1 0 を搬送することができる。

30

【 0 0 2 6 】

脚部 1 3 は、鏡本体 1 1 の前後方向に沿って延設された前後角筒 1 3 a と、前後角筒 1 3 a の床面と対向する一側面に設けられたキャスター 1 3 b とを有している。前後角筒 1 3 a は、支持部 1 2 の支柱 2 3、具体的には鏡本体 1 1 の上下方向に沿って延設された支柱 2 3 の 2 つの縦角筒のそれぞれに対応して設けられ、対応する縦角筒の下端に連結されている。1 つの前後角筒 1 3 a に対してキャスター 1 3 b は 2 つ設けられており、一方は鏡本体 1 1 の表面側に位置し、他方は鏡本体 1 1 の裏面側に位置している。このキャスター 1 3 b を駆動させることにより、鏡 1 0 を所望の場所に移動させることができる。

【 0 0 2 7 】

上記構成を有する鏡 1 0 の組み立てにおいては、まず、連結された支持部 1 2 及び脚部 1 3 が用意される。そして、支持部 1 2 の第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 の枠材 2 1 a 内に、枠材 2 1 a の長さ方向に鏡本体 1 1 の上端部 1 1 a 及び下端部 1 1 b が左右方向からスライド挿入される。そして、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 の結合材 2 4 b により、支持部 1 2 の第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 の板材 2 4 a と鏡本体 1 1 の左端部 1 1 c 及び右端部 1 1 d とが結合されて鏡 1 0 が組み立てられる。

40

【 0 0 2 8 】

以上のように本実施形態の鏡 1 0 は、樹脂板の表面に金属箔を形成して構成され、表面に鏡面 1 0 a が形成された板状の鏡本体 1 1 と、鏡本体 1 1 を支持すると共に平板状に維持する支持部 1 2 と、支持部 1 2 と連結され、鏡本体 1 1 を床面に自立させる脚部 1 3 とを備える。そして、支持部 1 2 は、鏡本体 1 1 の上端部 1 1 a を鏡本体 1 1 の前後方向で

50

把持する第 1 把持部 2 1 と、鏡本体 1 1 の下端部 1 1 b を鏡本体 1 1 の前後方向で把持する第 2 把持部 2 2 とを有する。そして、支持部 1 2 は、さらに、鏡本体 1 1 の左端部 1 1 c の裏面に取り付けられた第 1 取付部 2 4 と、鏡本体 1 1 の右端部 1 1 d の裏面に取り付けられた第 2 取付部 2 5 とを有する。このとき、第 1 取付部 2 4 は、鏡本体 1 1 の左端部 1 1 c から突き出ないように取り付けられ、第 2 取付部 2 5 は、鏡本体 1 1 の右端部 1 1 d から突き出ないように取り付けられる。また、鏡本体 1 1 は、樹脂板の表面に金属箔としてのステンレスを形成して構成され、このステンレスの表面には、保護フィルムが形成されている。

【 0 0 2 9 】

このような構成により、支持部 1 2 は、第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 により鏡本体 1 1 の上下両端部を掴み、第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 を上下方向で所望の間隔を開けた位置に固定できる。従って、支持部 1 2 は、鏡本体 1 1 の周縁に枠材が形成されなくても、第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 により鏡本体 1 1 を上下方向に引っ張って維持できるため、鏡本体 1 1 が大型化又は小型化された場合でも、鏡本体 1 1 の上下方向の歪み発生を抑えることができる。

【 0 0 3 0 】

また、支持部 1 2 は、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 を鏡本体 1 1 の左右両端部の裏面に固定し、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 について左右方向で所望の間隔を開けた位置に固定できる。従って、支持部 1 2 は、鏡本体 1 1 の周縁に枠材が形成されなくても、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 により鏡本体 1 1 を左右方向に引っ張って維持できるため、鏡本体 1 1 が大型化又は小型化された場合でも、鏡本体 1 1 の左右方向の歪み発生を抑えることができる。

【 0 0 3 1 】

また、支持部 1 2 は、第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 により鏡本体 1 1 の上下両端部を掴んで鏡本体 1 1 を支持するため、鏡本体 1 1 が大型化された場合でも、鏡本体 1 1 及び支持部 1 2 の結合を維持することができる。

【 0 0 3 2 】

また、第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 は鏡本体 1 1 の上下両端部を把持するために、鏡本体 1 1 の上下両端部から外側に突き出して設ける必要がある。しかしながら、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 については、鏡本体 1 1 の左右両端部の裏面に結合されるだけなので、鏡本体 1 1 の左右両端部から外側に突き出さないように設けることができる。従って、鏡 1 0 を複数並べて配置し、さらに大型の鏡を実現する場合でも、隣り合う鏡 1 0 で鏡本体 1 1 の左端部 1 1 c 及び右端部 1 1 d を接合させることができ、複数の鏡 1 0 を隙間が生じないように並べることができる。その結果、さらなる大型化が可能な鏡 1 0 を実現することができる。なお、このような複数の鏡 1 0 を並べる構成において、隣り合う鏡 1 0 の連結状態を強固にする部材がさらに設けられてもよい。例えば、隣り合って配置された 2 つの第 1 把持部 2 1 の両方が内側に配置され、この第 1 把持部 2 1 の両方にネジ等で固定されるコ字状の枠材 2 1 a が設けられてもよい。

また、本実施形態の鏡 1 0 では、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 は、鏡本体 1 1 の裏面に着脱可能に取り付けられる。

このような構成により、鏡 1 0 の組み立てを容易にすることができる。従って、鏡本体 1 1 が破損した場合でも鏡本体 1 1 の交換を容易に行うことができる。

【 0 0 3 3 】

また、本実施形態の鏡 1 0 では、第 1 把持部 2 1 は、鏡本体 1 1 の左右方向に延設され、内側に鏡本体 1 1 の上端部 1 1 a が配置されたコ字状の枠材 2 1 a を有する。そして、第 2 把持部 2 2 は、鏡本体 1 1 の左右方向に延設され、内側に鏡本体 1 1 の下端部 1 1 b が配置されたコ字状の枠材 2 1 a を有する。

【 0 0 3 4 】

このような構成により、鏡本体 1 1 が上端部 1 1 a 及び下端部 1 1 b において鏡本体 1 1 の左右方向の複数箇所で把持されるため、鏡本体 1 1 がさらに大型化された場合でも、

10

20

30

40

50

鏡本体 1 1 及び支持部 1 2 の結合を維持することができる。

また、本実施形態の鏡 1 0 では、支柱 2 3 及び棒材 2 6 は、金属により構成される。

【 0 0 3 5 】

このような構成により、第 1 把持部 2 1 及び第 2 把持部 2 2 の間隔を維持する支柱 2 3 と、第 1 取付部 2 4 及び第 2 取付部 2 5 の間隔を維持する棒材 2 6 とが剛性の高い金属により構成される。従って、鏡本体 1 1 がさらに大型化された場合でも、鏡本体 1 1 の歪みの発生を抑えることができる。

【 0 0 3 6 】

以上、本発明の鏡について、実施形態に基づいて説明したが、本発明は、この実施形態に限定されるものではない。本発明の要旨を逸脱しない範囲内で当業者が思いつく各種変形を施したのも本発明の範囲内に含まれる。

10

【 0 0 3 7 】

例えば、上記実施形態において、鏡本体の周縁に枠材が形成されないとしたが、鏡本体を強く平板状に維持したい場合には、鏡本体の周縁に高剛性、例えば金属製の枠材が取り付けられてもよい。この場合、鏡本体の周縁の枠材が鏡本体の上端部及び下端部となる。

【 0 0 3 8 】

また、上記実施形態において、支持部は、第 1 把持部及び第 2 把持部を鏡本体の上下方向の異なる位置に固定する部材を 1 つの支柱で構成したが、複数の支柱を連結して構成してもよい。同様に、支持部は、第 1 取付部及び第 2 取付部を鏡本体の左右方向の異なる位置に固定する部材を 1 つの棒材で構成したが、複数の棒材を連結して構成してもよい。

20

【 0 0 3 9 】

また、上記実施形態において、第 1 把持部及び第 2 把持部を鏡本体の上下方向の異なる位置に固定する支持部の支柱は、鏡本体の上下方向に長さが可変であってもよい。この場合、鏡本体の上下方向において、鏡本体の大きさに合わせて支柱の長さを調整し、第 1 把持部及び第 2 把持部の間隔を調整することができるため、設計自由度の高い鏡を実現することができる。

【 0 0 4 0 】

同様に、上記実施形態において、第 1 取付部及び第 2 取付部を鏡本体の左右方向の異なる位置に固定する棒材は、鏡本体の左右方向に長さが可変であってもよい。この場合、鏡本体の左右方向において、鏡本体の大きさに合わせて棒材の長さを調整し、第 1 取付部及び第 2 取付部の間隔を調整することができるため、設計自由度の高い鏡を実現することができる。

30

【産業上の利用可能性】

【 0 0 4 1 】

本発明は、鏡として有用であり、スポーツ練習用の姿見鏡等において広く利用することができる。

【符号の説明】

【 0 0 4 2 】

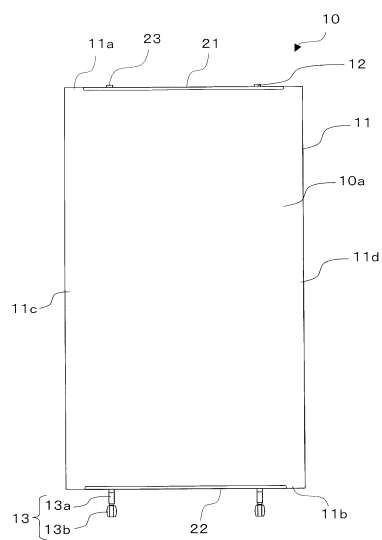
- 1 0 鏡
- 1 0 a 鏡面
- 1 1 鏡本体
- 1 1 a 上端部
- 1 1 b 下端部
- 1 1 c 左端部
- 1 1 d 右端部
- 1 2 支持部
- 1 3 脚部
- 1 3 a 前後角筒
- 1 3 b キャスター
- 2 1 第 1 把持部

40

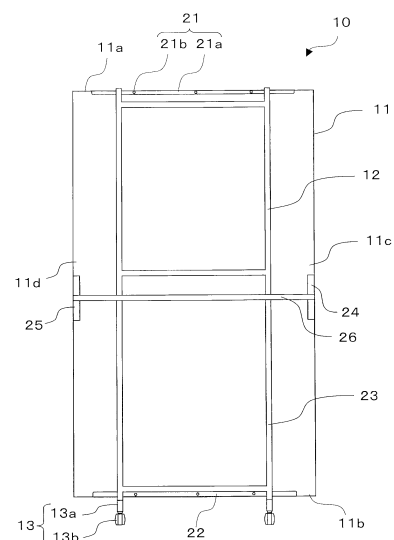
50

- 2 1 a 棒材
- 2 1 b ネジ
- 2 2 第 2 把持部
- 2 3 支柱
- 2 4 第 1 取付部
- 2 4 a 板材
- 2 4 b 結合材
- 2 5 第 2 取付部
- 2 6 棒材

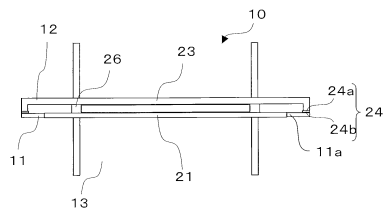
【図 1】



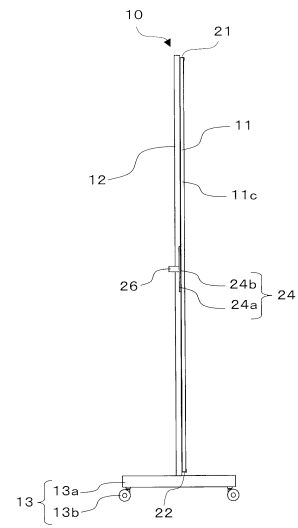
【図 2】



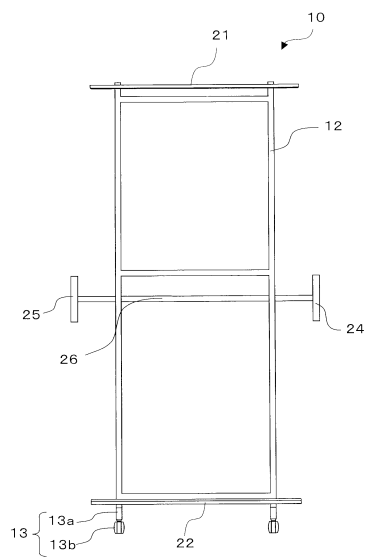
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

審査官 青木 正博

(56)参考文献 登録実用新案第3144951(JP, U)

実開平02-130327(JP, U)

特開2001-245765(JP, A)

実開平04-016962(JP, U)

実開昭59-044347(JP, U)

実開昭51-138297(JP, U)

特開2002-017531(JP, A)

特開2007-190437(JP, A)

実開昭57-104968(JP, U)

実開昭53-095296(JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47B 67/00 - 67/04

A47G 1/00 - 7/08

G09F 7/00 - 7/22